

2008年8月24日

第一回連携授業研修会 報告書

日時：2008年5月31日（土）

場所：滋賀会館4階文化実習教室

出席者：13名

内容：9：30～門脇課長挨拶・支援センター紹介

9：50～馬場センター長の講話

10：10～DVD鑑賞

10：30～意見交流

12：00 閉会

スタッフ：津屋結唱子、津屋有李、本田雅史

事務局：中西薫、南雅子

県民文化課：門脇課長

1. 挨拶

門脇課長からの支援センターの概要の説明の後、馬場センター長から支援センター設立の理念についてのお話があった。以下馬場センター長の講話。

「どの子にも体験させたいという願いから「学習」という名をつけて、学習の中での支援をするというのが願いです。また、全県下（湖西や湖南や湖北など）でもやっていきたいと思っております。まだ立ち上がったばかりですが、6月には湖北の中学校でも始まり、成果がでており、良いスタートがきれいていると思います。」

2. DVD鑑賞

「美しいもの、ほんものに 触れて 輝いて」のDVD鑑賞

3. 意見交流

文化施設側と教諭側の2つの立場から意見が出された。

まずは文化施設側から、連携についての意見があがった。

県内には多くの博物館があるがそれぞれに連携を行っていて発信がされておらず、その組織・館との連携を館からもちかけるのは苦手なことだという意見。また、やりたいことをやるにはどこにアプローチすればいいのかポイントが分かりにくいとの意見も。

プログラムに参加した子供がどのようになったのかケーススタディし、その経過を見ながらPRしていく必要があるとの意見。

この意見に対しては、アンケートは行っているが追跡調査は行っていないと琵琶湖博物館から返答があった。追跡調査をやるとしても、一週間後、一年後と調査の期間が長く、調べていくのにとっても時間がかかることから難しいと現状での難しさが上がり、また馬場センター長からは個人情報の問題もあるとの指摘があった。しかし本当に知りたい事柄なので、調査方法にもう少し簡便なやり方があればと検討の余地を残した。

びわ湖ホールから、県立図書館との連携の紹介。内容は、開場までの時間で読み聞かせしたり、本を借りて来てホワイエに置いたとのこと。博物館や美術館でもそういうことができるのでは提起。ホワイエの活用に関しては、「琵琶湖サミット」で展示ブースの例が上げられ、パネルを立てたり作品展示をするなどの意見が出された。

文化施設の現状の問題点についての意見。文化施設の職員は変化をとらえて次の一手ができない。分析や調査ができてない。事業評価がつけられているの三点が上げられた。

またびわ湖ホールからは子供普及の先駆けとして劇団四季があげられ、以前から子供たちの鑑賞に力を入れており、現在その成果が動員数として表れており、参考にしなければと意見。

最後に文化の風当たりの厳しい中予算をとるのは困難だったが、委員会の方向性として教育政策と文化政策の二面性がある、とても大事なことだと思いと締められた。

次に教諭側からの意見が出された。

連携授業の成果として「文化芸術は人と人とのつながりから出来ていることが分かった。だから作品を大切にしたい。そんな自分も大切にしたい」という生徒の感想が紹介され、学んだことが存在の意義へと繋がっていくことへの感動が語られた。

しかし、連携授業はあくまで特別授業であり、だからこそ子供の期待感や集中がある。常に連携がベストというわけではなく、普段の授業の積み重ねがあっこそ。との意見も。

意見交流の最後に夏の研修会の告知があり、内容の紹介がされた。このとき、美術館側教諭側からこの日程では参加できない(研究会や部活の合宿と被るため)との声があがり、日程調整が来年度の研修会の課題としてあがった。

4. 閉会

意見交流のまとめとして青山副館長より講話があった。

「ホールやMIHOさんや陶芸の森とかとも連携ができていければ。実のある連携をしていかなければと。ファールや北斎ともそういう連携していけるような、よその館をPRできるような人材が育てられないかと。できれば美術だけでなく違うサイドからみなければ、そういう時代にきている今、立ち止まって美術芸術文化を改めて考えていきたい。夢のような話だけれどそんなことができればいいと思う。」と締めくくられた。